

平成 22 年 6 月 1 日現在

研究種目：若手研究（B）  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19720066  
 研究課題名（和文） ドイツと日本における演劇・パフォーマンスの実践的ドラマトゥルギー研究  
 研究課題名（英文） Research on Practical Dramaturgy Studies in Germany and Japan

研究代表者  
 平田 栄一郎（HIRATA EIICHIRO）  
 慶應義塾大学・文学部・准教授  
 研究者番号：00286600

研究成果の概要（和文）：同研究により、日本とドイツ演劇のドラマトゥルギーに関連するドイツ語書籍を一冊編纂・出版し、ユートピア研究と文学・演劇に関する日本語書籍を出版することができた。さらには、ドイツ、ギリシア、カナダ、アメリカの国際シンポジウムに参加し、日本とヨーロッパ演劇の比較論的考察について議論する機会をもつことができた。とりわけ上記のドイツ語は、日本と諸外国の研究者が現代日本演劇をドイツ語で最初に網羅的に紹介する世界初の研究書となった。

研究成果の概要（英文）：With the financial support by the JSPS, the research on the dramaturgy in German and Japanese Theatre achieved a substantial result: A German book on Japanese Theatre and a Japanese book on utopia studies were published. Furthermore, I was able to present English and German papers at international conferences in Germany, Greece USA and Canada.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,000,000	0	1,000,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	360,000	2,560,000

研究分野：文学研究（ヨーロッパ）

科研費の分科・細目：ドイツ文学 ドイツ演劇 演劇学

キーワード：パフォーマンス 上演分析 日独の比較演劇研究

## 1. 研究開始当初の背景

日本とドイツ・ヨーロッパの比較論的演劇研究はこれまでほとんど行われていなかった。とりわけこの百年の日本演劇を国内外の研究者が考察し論じる書籍や欧州言語では皆無に等しかった。また欧州の劇場では活動するドラマトゥルクという職分が日本の演

劇界では認知されておらず、この職分とドラマトゥルギーの可能性を日本に紹介する必要性があった。

このような欠落を補うため、国内外の演劇研究者がシンポジウムや共著において、日本とドイツの演劇などを多角度から議論し、各国の演劇を幅広い視点から再評価すべきと

考えた。また、欧州では制度として確立しているのに、日本演劇界では未発達な演劇制作スタッフ・ドラマトゥルクという職分についても、ドイツ・ベルギー・イギリス・アメリカなどの事例から国際的に評価した上で日本の文化政策において議論すべきと考えた。

## 2. 研究の目的

このような背景を踏まえて、ドラマトゥルギーの視点から日独の演劇を比較論的に考察し、ドイツ語の書籍と、ドラマトゥルクの活動を幅広く紹介する日本語書籍を出版することを最終目的とした。また国外で国際シンポジウムを開き、欧州・北米・アジアの研究者によるドイツや日本演劇について議論することにより、これらに演劇に対する新たな視点が見出されることも目標とした。

## 3. 研究の方法

書籍発表の準備段階として、国内外の研究者とドイツ・アメリカなどのシンポジウムで議論を重ね、比較論的な考察を自己検証した。また、この国際交流によって、書籍出版の執筆者を絞り込んだ。またドラマトゥルクの研究では、欧州の劇場や演劇祭で活動するドラマトゥルクたちからヒヤリングを行った。さらには日本演劇界で制作ドラマトゥルギーを実践している少数のドラマトゥルクたちからもヒヤリングを行い、日本の実例に関する情報を集めた。

さらには、日本演劇・ドイツ演劇、ドラマトゥルクに関する英語・ドイツ語・日本語文献を蒐集し、それらについて調査を行った。

また国際ブレヒト学会 International Brecht Society が 2010 年にハワイ大学でアジア演劇とブレヒトとの関連をテーマにして国際シンポジウムを開催するに先立って、研究代表者は同シンポジウムの実行委員となり、北米と欧州のブレヒト研究者とアジアの演劇人や研究者を連携する調整を行った。

## 4. 研究成果

日本とドイツ演劇のドラマトゥルギーに関連するドイツ語書籍を一冊編纂・出版し、ユートピア研究と文学・演劇に関する日本語書籍を出版することができた。さらには、ドイツ、ギリシア、カナダ、アメリカの国際シンポジウムに参加し、日本とヨーロッパ演劇の比較論的考察について議論する機会をもつことができた。とりわけ上記のドイツ語は、日本と諸外国の研究者が現代日本演劇をドイツ語で最初に網羅的に紹介する世界初の研究書となった。

また、ドラマトゥルクに関する日本語書籍は平成 22 年中に三元社から出版する予定である。この職分に関する日本語書籍はまったくなく、本書が最初の試みとなると思われる。

昨年の政権交代以来、政府は演劇に対する文化政策として、地方の劇場に制作スタッフを拡充する方針を実施してきているが、ドラマトゥルクの書籍が制作スタッフのあり方や質の向上を議論する際に参考になると思われる。

従来の演劇研究では、ヨーロッパと北米だけが国際的な研究で多くの実績を残したのに対し、ヨーロッパとアジア、北米とアメリカの関連では本格的な共同研究が少ない。したがってヨーロッパの国際的な演劇研究者は欧米の演劇については高い専門知識を有しているのに、日本演劇については初歩の知識しかなく、反面、日本のドイツ演劇研究は、国際的な演劇学の方法や潮流と無縁なまま内向きの研究を行ってきた。このような問題は、ヨーロッパと日本だけでなく、アジアと世界演劇を国際的に議論し、共通の方向性を見出す上で、無視できない問題である。

本研究は、国際的な書籍出版企画やシンポジウムなどによって、このような限界や壁を乗り越えて、より本格的な国際研究の促進の一助になるものと考えている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

1. 平田栄一郎 (単著): 声と沈黙のパフォーマンス　ク・ナウカの『女王メディア』を例に (大宮勘一郎編『メディアシステムの闘』代表科学研究費報告論文集、2008年3月、235-247頁、査読なし)

[学会発表](計3件)

1. 平田栄一郎 (単独): Das andere Brecht-Theater in Japan (国際ブレヒト学会 International Brecht Society 第13回シンポジウム 於: ハワイ大学 2010年5月21日)
2. 平田栄一郎 (単独) 終焉の演劇——クリストフ・マルターラー演出の『三人姉妹』 (日本演劇学会西洋比較演劇研究会 2007年12月8日) 成城大学
3. 平田栄一郎 (単独) Dramaturgy in Japanese Theatre(ヘッセン州演劇アカデミー並びにフランクフルト大学主催)

国際会議「European Dramaturgy in the 21<sup>st</sup> Century」於：フランクフルト大学 2007年9月29日)

〔図書〕(計2件)

1. 平田栄一朗・Hans Thies Lehmann (共編著) Theater in Japan Theater der Zeit 社 2009年2月 計283頁、担当論文：Vorwort;7-15頁、Der offene Theatertext bei japanischen Dramatikern;100-108頁、Das japanische Regietheater;109-119頁、Gestus des Reisenden—Schnittpunkte im japanischen Theater;147-158頁
2. 柴田陽弘編 平田栄一朗・その他(共著)『ユートピアの文学世界』慶應義塾大学出版会 担当：第9章：ユートピアとメランコリー、2008年6月 計289頁、うち担当232 251頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

1. 平田栄一朗(単独) Zur japanischen Übersetzung vom Buch “Performativen des Ästhetischen” (シンポジウム MachtTheaterWissenschaft 主催：ベルリン自由大学演劇・映画・メディア研究所、於：同研究所、2010年2月6日) 国際シンポジウム発表

2. 平田栄一朗(単独) Dumb Type und Medien (シンポジウム：Japanese Theatre 主催：Megaron Athens International Conference Center、於：同センター、2009年11月25日) 国際シンポジウム発表
3. エリカ・フィッシャー＝リヒテ著(中島裕昭・平田栄一朗他訳)『パフォーマンズの美学』論創社 2009年10月 担当箇所：第4章2「空間性」、3「音響性」、4「ライブ性」(159-202頁)ならびに翻訳全体の推敲 翻訳
4. 平田栄一朗(単著)：The Other Dramaturgy between Europe and Asia. In: Performance Research Vol.14-No.3, Taylor & Francis 社 UK, 2009年9月 p.44. 評論
5. 宮下啓三・平田栄一朗他訳『ディルタイ 翻訳全集第7巻 精神科学成立史研究』法政大学出版局 2009年7月 共訳 担当箇所 第2部：シュライアーマッハー関連論考 557-693頁 翻訳
6. 平田栄一朗(単著)：ベルリン演劇祭の常連演出家 マルターラー、ゴチェフ、プーハー、シュテーマン(「テアトロ」 2008年6月号、24 26頁 評論
7. 平田栄一朗(単著)：世界変革の不可能性に対する処方箋 ベルリン・フォルクスビューネの戦略 (所収：「劇場文化」 No.12, 2008年5月、93-99頁 評論
8. 平田栄一朗(単著)：エルフリーデ・イエリネク『汝、気にすることなかれ シューベルトの歌曲にちなむ死の三部作』(ゲルマニスティケンの会「Flaschenpost」第29号、2008年5月、18頁 評論
9. 平田栄一朗(単独) The performative aspect of Voices in Ku Nauka's *Medea*

(ブリティッシュ・コロンビア大学主催  
シンポジウム”Body-Spaces” 於：The  
Liu Institute for Global Studies 並びに  
the Dorothy Somerset Studio Theatre  
at The University of British Columbia  
2008年3月16日)国際シンポジウム発  
表

10. 平田栄一郎(单著):ドラマトゥルク(ド  
イツにおける)(丸本隆他編『演劇学  
のキーワード』ペリかん社、2007年  
3月、29-31頁 執筆

6. 研究組織

(1)研究代表者

平田 栄一郎 (Hirata Eiichiro)  
慶應義塾大学・文学部・准教授  
研究者番号：00286600

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：